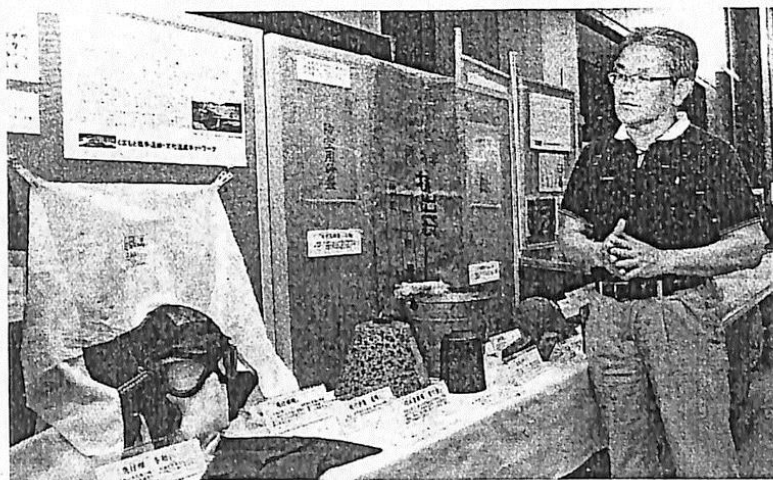


(第3種郵便物認可)

絵本・資料から見た空襲展

熊本市立図書館 頭巾など70点



戦時資料について説明する高谷さん

空襲に関する絵本や実際に住民が使った防空の装備品を展示する「2018夏の平和展『絵本・戦時資料から見た熊本空襲』」が、熊本市中央区の市立図書館1階で開かれている。8月26日まで。

市教育委員会と「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」が主催。空襲に備え、国内で使われていた乳児用の防空頭巾のほか、鉄がないため紙で作ったかぶと、空襲などについて描かれた子ども向けの絵本など約70点を展示している。本や紙芝居は手に取って読

むこともできるといふ。

熊本市内が被害を受けた1945年7月1日の「熊本大空襲」で大量に投下された焼夷弾「M69焼夷弾」と同型の焼夷弾も展示している。

太平洋戦争では熊本市内も空襲で甚大な被害を受け、昨夏には、同市東区で米軍が投下した大型の不発弾が発見された。同ネットワークの高谷和生代表は「戦後70年が過ぎても、熊本空襲は終わっていないと感じている。平和の大切さを感じ、熊本空襲の姿を知ってもらう機会になれば」

と来場を呼びかけている。8月11日午後1時半からは、戦時資料を集めている元高校教諭の上村真理子さん(宇城市)が「空襲を語る絵本たち」と題して同図書館で講演する。定員40人で、事前申し込みが必要。問い合わせは同館(096・363・4522)へ。